

【博士後期課程ディプロマポリシー】

- (1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけている。
- (2) 自然環境を損なわない生物資源の開発、保全、利用に貢献できる生物資源学の高度な専門知識と技術、経験を有している。
- (3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
- (4) 国際社会においても、他者と協力して問題解決に取り組むために十分なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけている。
- (5) 国際基準に照らして十分に独創性のある研究を自立して行うことができる。

研究科DP	1年次～3年次
(1)	
(2)	[専門の講義Ⅱ類]－専攻内他講座または他専攻の授業科目 [専門の講義Ⅰ類]海洋環境学、沿岸域生物環境保全学、地・気象利用施設論、自然災害科学、景観評価・管理学、将来地球環境学 植物分子・細胞生物学、栄養資源評価学、持続可能な地球システム論、先進生命科学 特別講義 + ◎特別演習 + 特別実験・◎特別調査研究 + ◎課題研究 + +
(3)	
(4)	
(5)	

区分	授業科目名	到達目標	研究科 DP との関連				
			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
講座授業科目（選択必修）	海洋環境学	海洋環境調査事例を踏まえて、調査手法並びに成果、適用手法について論考する基礎力がつく。		◎			
	沿岸域生物環境保全学	巨沿岸地域を人間・その他の生物の生息域として存在するという知識をうる。博士課程後期学生が論文執筆可能となる。沿岸地域環境の脆弱性を理解できるようになる。モンスーンアジアでの研究事例からデルタの水環境・沿岸環境モデルを地形環境から知識を深めることができる。		◎			
	地・気象利用施設論	モデルの作成には自作を想定している、その作成過程において、多くのノイズ、あるいは不安定性の存在を確認できると予想できる。それらを体験して問題の解決能力を高める。		◎			
	自然災害科学	シ何らかの自然災害に関してエキスパートとなるべく知識を得ること。		◎			
	景観評価・管理学	地球や地域の景観評価・管理についての基礎的考究ができ、各種景観の課題に対処できるようになる。		◎			
	将来地球環境学	地球規模の気候変動と環境変化についての理解を深め、その影響を受けて地域に表出する問題を自ら探求し、課題に対処できる能力を得る。		◎			
特別講義	植物分子・細胞生物学	最新論文の Results のみから、論文全体の論理の流れと概要、場合によっては論文の矛盾点や今後の課題を自ら見出せる能力の養成を到達目標とする。	◎	○			
	栄養資源評価学	研究者に必要とされる草地生態系を構成する動物－植物－土壌システムと家畜の栄養・飼料・健康性・行動を理解し、理論構築する能力を身につける。	◎	○			
	持続可能な地球システム論	学習の到達目標として、①持続可能性とは何か、②なぜ持続可能性が問われるのか、③産業革命以降の人類の精算・消費活動のあり方、④成長の限界、⑤日本における化石燃料依存社会、⑥自然エネルギーの概要、⑦自然エネルギー社会の基本原則、⑧地域循環社会、⑨エネルギー自給自足社会、⑩未来への展望、などの知識を得る。また、実践的なヴィジョンを持つことができる。	◎	○			
	先進生命科学	学習の到達目標 生命科学、特に分子・細胞レベルの生命科学におけるいくつかのトピックスについて、最新の情報を得るとともに、分子生物学、細胞生化学についてのいくつかの最先端研究手法についても理解し、研究へ応用する能力を養う。また、プレゼンテーション能力も養う。	◎	○			

研究科 共通科目	課題研究	設定された研究テーマについて、複数の指導教員 の元で研究を遂行する事によって、専門の学力を高 め、創造的な研究能力を育成するとともに、視野の 広い見識を得る。		◎	○		○
	特別演習	専門的知識を深め、研究の最新動向を掴んで、自 らの研究テーマの展開に役立てると共に、研究者と して、将来的には自立して研究の計画・遂行・発表 ができるようにする。		◎		○	
	特別実験	所属する専攻分野における直接研究課題に関する 実験のみならず、幅広い分野に関連する最新の科 学機器の操作法や実験技術を体得させ、高度な研 究技術について習得する。	◎		○		
	特別調査研究	フィールドサイエンスセンターの農場・演習林・水産 実験所と練習船の勢水丸における研究活動を体 験・調査することにより、学際的な研究領域の実態 の概要を理解することができ、また各施設における 調査・実験を通して、幅広い調査研究の手法・技術 ならびに研究企画力が習得できる。	◎		○		

【博士後期課程ディプロマポリシー】

- (1) 幅広い教養と倫理観，国際感覚を身につけている。
- (2) 自然環境を損なわない生物資源の開発，保全，利用に貢献できる生物資源学の高度な専門知識と技術，
経験を有している。
- (3) 科学的で論理的な思考を展開することができ，計画的に問題の解決に取り組むことができる。
- (4) 国際社会においても，他者と協力して問題解決に取り組むために十分なプレゼンテーション能力，コミュニ
ケーション能力を身につけている。
- (5) 国際基準に照らして十分に独創性のある研究を自立して行うことができる。